

## 兵庫県社土地改良事務所 光山治夫

このシリーズでは、ため池の自然と文化を紹介してきました。今回は、ため池の改修を行っています土地改良事務所からです。

兵庫県には全国一の4万4千余りのため池があり、加西市には約900のため池があります。

さて、三木市出身の玉岡かおるさんの小説「をんな紋」では、「播州平野では、雨が少なく、ため池の堰をほんの数寸掘り下げ、下げない、と言った他愛もないことで水争いが繰り返されてきた。また、そのことは農民には死活がかかっていた。」とあります。このように昔から加西市は水不足に悩んできました。そのため、ため池は農家の皆さんのためめ維持管理を通じて地域の貴重な農業用水源として農業を支えてきました。

今では、平成3年に完成した国営土地改良事業により旧中町に建設された糶屋ダムから十分給水されるようになりました。平成6年の大干ばつには、その恩恵を大いに感じたものです。

しかも、今ではありがたいことに電話一本で、ため池に配水されることから、ため池の管理がおろそかになっていませんか。それは、「ため池がヘドロ・ガマ・ハスでいっぱい」「底樋が埋まってしまった」「ゲートが錆び付いて動かなくなった」という話が増えてきたことから伺えます。



加古川西部土地改良区によるじゃことり大会  
(2006年10月29日鴨谷町奥池)

今年から始まった、農地・水・環境保全向上対策は、地域の皆さんの活動でため池を農業用水源として、生き物の棲みかとして、憩いの場として守っていくことも目標の一つとしております。

さあ皆さん、昔のように、池ざらい、じゃことりをしながら、ため池に感謝し、ため池の未来を、そして再生を考えてみましょう。



ピック  
アップ

加西  
市史

9

## 神を迎えての六社立会神事

### —池上日吉神社秋祭礼—

『加西市史』第六巻「民俗」より

池上町の日吉神社では秋祭に、隔年で氏子神社の神輿が集まり、六社立会いの神事が行われます。

日吉神社の元宮といわれている河内町の鎌倉山（鎌倉神社）から、同じく河内の六処神社の神輿に乗って神が日吉神社へ渡ってくるのを、氏子の神輿が迎えるという形をとっています。迎える神輿は、野上大歳神社、山田新宮神社、和泉有馬神社、中富磯部神社、別府大歳神社で、人（氏子）と神（神輿）がそろって鎌倉山の神を迎えているといえます。

六処神社神輿が氏子の神社神輿と合流するたびに、龍王舞が舞われ神輿の進む先の邪気を祓います。御旅所で全ての神輿がそろると、いよいよ宮入りです。

日吉神社のある池上町は神輿を出さない代わりに、神と共に祭を祝う椎柴の御供事など重要な役割を務めます。「椎柴の御供」は神が降りる依り代で、椎の枝と蒸し米で作られています。

古い形態を残している日吉神社の秋祭は、宮元（池上町）の祭への関わり方など民俗学的にも重要な祭といえます。



写真 神輿総練り

このコーナーでは、加西市史について皆さまに分かりやすく紹介します。